

試される障害者雇用

浅野史郎の

⑱

夢ふれあい

年の初めである。昨年
末から続く経済危機、景
気の後退、それらを反映
した雇用状況は、ますま
す厳しさを増していくだ
ろう。

そんな中で、障害者の
就労が気がかりである。
「一般の労働者の雇用す
らままならない中で、障
害者の雇用など構ってい
られない」という企業が
現れはしないか。「最後
に雇われ、最初に首にな
る」弱い立場の障害者と

いう図式があ
たりまえと見
られていない
か。

障害者自立
支援法は、使
い勝手が悪
い、単価が安
い、原則1割の応益負担



たいやき店で働く障害者。
ATARIMAEプロジェ
クトで紹介されている

がおかしいなど、厳しい
評価がなされている部分
が多い。しかし、障害者
の自立のために、就労を
支援するということも、
この法律の重要な目的に
なっていることを忘れて
はならない。ゆっくりで
はあるが、着実に障害者
の就労が進んできている
ことも事実である。その
精神を大切にしたい。
ユニクロは、8・06%

もの高い障害者雇用率を
達成している。ヤマト福
祉財団が直営3店、チェ
ーン店23店で運営してい
るスワンベーカーリーで
は、300人近くの障害
者が仕事をしている。こ
の欄でも紹介したが、ヤ
マト運輸のメール便の配
達を約1000人の障害
者が担っている。

神戸の社会福祉法人
「プロップ・ステーション」では、「チャレンジ

ド就労支援ICTセミナー」の東京での展開を昨
年10月に始めたし、「障
害者があたりまえに働け
るニッポンへ」を掲げて
厚生労働省が支援する
「ATARIMAEプロ
ジェクト」も昨年始動し
た。

福祉企業家が新しく事
業を立ち上げて、自前で
障害者を雇うという例
も、増えつつある。そう
いった動きがある中で、
不況によって障害者が職
場から追われることがあ
ってはならない。

懸命に働く障害者の姿
は、不況であえぐ企業や、
一緒に働く社員に勇気を
与えてくれるはずであ
る。雇用にとつての冬の
時期にこそ試される障害
者雇用、まずは新しい年
の課題である。

(慶応大学教授)